

モニタリング結果報告書 (平成27年度)

1. 施設概要

施設名	伊勢原射撃場		
所在地	伊勢原市上粕屋2, 380番地		
サイトURL	http://www.isehara-shooting.jp/		
根拠条例	神奈川県立伊勢原射撃場条例		
設置目的(設置時期)	県民に射撃に関する知識の習得及び技能の向上の場を提供し、もって県民のスポーツの振興に寄与するため(平成9年5月)		
指定管理者名	一般社団法人神奈川県射撃協会		
指定期間	平成25年1月1日～30年3月31日	施設所管課	スポーツ課

2. 総合的な評価

総合的な評価の理由と今後の対応	
<p>射撃教室の開催や射撃教習及び技能講習の実施を通じて、概ね事業計画書の内容どおりの取組を実施している。利用状況の評価結果がB評価、利用者の満足度の評価結果がA評価、収支状況の評価結果がS評価となったことから、平成27年度の3項目評価についてはA評価とした。利用状況の評価結果がB評価となったが、第70回国民体育大会2015紀の国わかやま国体クレー射撃競技大会(以下「わかやま国体」という。)の開催を見据えた施設の各種改良工事における休業期間に伴い、利用者に施設を供することができなかったことを勘案すると、概ね計画どおりの利用者数となった。</p> <p>今後は、事業計画に掲げた取組を継続するとともに、NTC競技別強化拠点施設(クレー射撃)に指定された施設としての強みを最大限活かした事業展開を図ることにより、引き続き、利用者の安全管理の徹底と将来の射撃競技人口の裾野の拡大に資するような施設の管理運営を通じて、更なる利用拡大とサービスの向上に努めてもらいたい。</p>	
<p><各項目の詳細説明></p> <p>◆管理運営等の状況 射撃教室の開催や射撃教習及び技能講習の実施を通じて、概ね事業計画書の内容どおりの取組を実施した。中でも施設の安全管理については、利用者に対する適切な指導やサポートを徹底することにより、利用者が安全かつ安心して利用できる環境整備に注力するなど、事故のない施設運営に努めている。平成27年度は、わかやま国体の開催を見据えた各種改良工事を実施するために、数ヶ月間の休場期間を余儀なくされたが、同競技大会の開催に向けて県に全面的に協力し、同大会を成功裏に導くための支えとなったことは評価できる。</p> <p>◆利用状況 利用者数が目標達成率で99.5%となり、B評価となった。また、対前年度比でも、2.5%のマイナス(対前年度比502人の利用者数減少)となった。平成27年度は、同年9月下旬から10月上旬に開催された、わかやま国体の開催を見据えた各種改良工事を施すために数ヶ月間の休場期間を要したことから、当初計画どおりの利用者数には達しなかったものである。しかしながら、当該国体の競技開催期間中(3日間)の一般来場観客数は約3,000人に登り、過去の国体に比べても最多の来場者数であったことは、多くの県民等が射撃競技に興味を抱いて来場された証でもあり、大きな励みとなった。</p> <p>◆利用者の満足度 9月と翌年3月に実施し、上位2段階の回答割合が83.4%となったためA評価となった。回収率は、前年度の83.7%から減少しているため、アンケート項目を刷新したり、利用者へのアプローチ方法を改善するなど、利用者幅広く回答してもらえるような工夫を行うよう指導した。</p> <p>◆収支状況 毎月実施している県警及び警視庁の技能講習の受講者が、毎回ほぼ定員を満たすなど、利用者の増加に伴う利用料金収入増と徹底した経費節減による支出の抑制に努めた結果、収支差額が7,560千円のプラスとなったためS評価となった。</p> <p>◆苦情・要望等 主に施設の経年劣化、老朽化による故障、破損に関する要望など指定管理者に起因しない要望が寄せられたため、職員による事前点検回数を増やしたり、簡易的な修繕を施すなど、適切な対応に努めている。</p> <p>◆事故・不祥事等 4月の休場日にクレー放出機メンテナンス担当者が、放出機の板バネ等の修理に従事し、手でクレー標的を放出した際に出割れが生じ、クレー標的の破片が目当たって負傷するという事案が発生した。指定管理者において、あらためて全従業員に対して注意喚起を行うとともに、防護ヘルメット及び防護眼鏡の装着の徹底及び作業着手前の事前報告を徹底するよう指示した。県としても、事故の原因究明を徹底し、再発防止策を講ずるよう指示した。</p> <p>◆労働環境の確保に係る取組状況 県による監査、労働基準監督署からの指摘事項はない。</p> <p>◆その他 なお、平成27年度の3項目評価についてはA評価とした。今後は、事業計画に掲げた取組を継続するとともに、NTC競技別強化拠点施設(クレー射撃)に指定された施設としての強みを最大限活かした事業展開を図ることにより、引き続き利用者の安全管理の徹底と将来の射撃競技人口の裾野の拡大に資するような施設の管理運営を通じて、更なる利用拡大とサービスの向上に努めてもらいたい。</p>	

3項目評価	S:極めて良好 A:良好 B:一部改善が必要 C:抜本的な改善が必要
A	※3項目評価とは、3つの項目(利用状況、利用者の満足度、収支状況)の評価結果をもとに行う評価をいう

3. 月例・随時モニタリング実施状況の確認

月例業務報告 確認	遅滞・特記事項があった月	特記事項または遅滞があった場合はその理由
現場確認	実施日	特記すべき事項があった場合はその内容
	平成27年 4月20日	
	平成27年 8月 6日	
	平成27年 9月11日 平成28年 3月 3日	
随時モニタリングにおける指 導・改善勧告等の有無	有・無	指導・改善勧告等の内容

4. 管理運営等の状況

[指定管理業務]

事業計画の提案内容	実施状況等	実施状況に関わるコメント
<p>【施設の維持管理について】 施設内の改修を含む維持管理については、射撃場利用者の直接的サービス低下につながらないように、県と連携しながら優先して取り組む。</p>	<p>日頃から施設や設備機器等のメンテナンスに注力しているが、クレー放出機の経年劣化により射撃を中断するケースが散見されたことから、県がわかやま国体の開催を契機に放出機を全て入れ替えた。また同様に、利用者からの要望が多かったトイレのウォシュレットを県が設置したことを受け、快適な空間の維持に努めている。</p>	<p>クレー放出機の入替え後は故障もほとんどなくなり、利用者の不満も解消した。ウォシュレットの設置も利用者からの要望が多かっただけに、設置後の利用者の反響も大きかった。</p>
<p>【事故防止のための安全指導】 射撃場の責務として、単に射撃競技の場として利用させるだけではなく、利用者の射撃技能の向上、安全対策、安全意識の啓蒙に努める。</p>	<p>安全指導及び対策については、引き続き実施中であり、平成27年度における施設に起因する利用者の事故は0件であった。 また、射撃教習、技能講習の受講者に対しても事故防止のための安全指導を徹底している。</p>	
<p>【ニーズに合った射撃場運営】 銃の所持者はもろろんのこと、銃を所持していない子供から大人まで幅広い利用者層が、楽しみながらビームライフルを利用できるような、「親しみやすい射撃場」を目指して鋭意努力する。</p>	<p>クレー射撃、大口径・小口径ライフル射撃、空気銃・ハイパワー空気銃、ピストルが利用できる日本有数の総合射撃場として、利用者のニーズに対応するだけでなく、伊勢原市スポーツ課と協力して、射撃体験教室を年3回開催し、毎回80人の定員を満了す盛況で、家族連れの来場者も増えている。</p>	
<p>【射撃人口の拡大】 現在の銃砲所持者が銃砲スポーツや狩猟活動を続けやすい環境を作り、また、一般の方への射撃スポーツ・猟銃の安全性や魅力をPRし、若年層の育成に繋げる。</p>	<p>昨年度から毎月実施している射撃教習は、新規に銃を所持する目的で毎回数名受講しており、普及活動に貢献している。 また、高校射撃部員の指導を行い、選手の育成にも努めている。</p>	<p>再開場と同時に創部された県立伊勢原高等学校射撃部は指定管理者が指導しているが、創部3年目にして、関東大会出場を果たし成果を上げている。</p>
<p>【地元の人材活用】 射撃場職員の採用については、危機管理の迅速性、地域活性化等の幅広いメリットが期待できるため、地元の方を優先して採用していく。</p>	<p>射撃場のパート従業員については、ほとんどを施設近郊の方を採用し、地元のシルバー人材も派遣依頼している。また、高校生や中学生の職場体験を近隣の学校と協力して実施するなど、地域に密着した取組を行っている。</p>	

[参考：自主事業]

事業計画の提案内容	実施状況等
ライフル競技（S B =スモールポア小口径）月例会	毎月1回、競技人口が多い50m P 60M・Wの競技を参加料3,000円を徴収して実施している。地元の養鶏場の卵を参加賞として提供したり、地元の仕出し弁当屋の弁当を昼食として提供する等、参加者に楽しんでもらえるよう工夫している。参加者には好評で、参加人数も徐々に増えている。 平成27年度実績 合計88名参加

5. 利用状況

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりに定員数等を記載してください。
B	

	前々年度	前年度	平成27年度
利用者数※	17,748	20,408	19,906
対前年度比		115.0%	97.5%
目標値	20,000	20,000	20,000
目標達成率	88.7%	102.0%	99.5%

目標値の設定根拠： 指定管理者申請書収支計画に基づき設定

利用者数の算出方法（対象）： 利用料金から算出

[参考：最大利用可能人数／年] ※利用種目、時間、流動人数など条件により異なり算出不可

						合計
定員						
年間利用可能日数						
最大人数※	0	0	0	0	0	0
稼働率	%	%	%	%	%	

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

6. 利用者の満足度

評価	≪評価の目安≫ 「満足」（上位二段階の評価）と答えた割合が、S：90%以上 A：70%以上～90%未満 B：50%以上～70%未満 C：50%未満 ※評価は施設としての総合的評価の「満足」回答割合で行う
A	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	年間2回を9月と翌年3月に調査	協定に定めた年間2回を9月と翌年3月に実施した。結果として、トイレの洋式化とウォシュレットの設置、クレー標的放出機の交換等、これまで利用者からの要望が多かった課題を改善したことが、利用者からの高い評価に繋がった。

[施設としての総合的評価]

質問内容 該当する印象にチェックを付けてください（トータル的な満足度）。

実施した調査の配布方法 利用者に直接配布 回収数／配布数 353 / 457 = 77.2%

配布(サンプル)対象 施設の利用者

	満足	どちらか といえば 満足	ふつう	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答があった 場合はその理由
施設としての総合的 評価の回答数	182	109	50	8	0	349	・クレーが見づらい。 ・AR射場に電子標的を設置 ・射順、射団がわかりづらい。 ・トイレがきれい。
回答率	52.1%	31.2%	14.3%	2.3%	0.0%		
前年度の 回答数	140	97	64	11	1	313	
前年度回答率	44.7%	31.0%	20.4%	3.5%	0.3%		
回答率の 対前年度比	116.6%	100.8%	70.1%	65.2%	0		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

[参考：職員の対応状況]

質問内容 該当する印象にチェックを付けてください（接客対応）。

実施した調査の配布方法 利用者に直接配布 回収数／配布数 353 / 457 = 77.2%

配布(サンプル)対象 施設の利用者

	満足	どちらか といえば 満足	ふつう	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答があった 場合はその理由
施設としての総合的 評価の回答数	237	58	50	5	0	350	・接客が親切で親しみやすい。
回答率	67.7%	16.6%	14.3%	1.4%	0.0%		
前年度の 回答数	200	45	70	2	0	317	
前年度回答率	63.1%	14.2%	22.1%	0.6%	0.0%		
回答率の 対前年度比	107.3%	116.7%	64.7%	226.4%	#DIV/0!		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

[参考：その他]

7. 収支状況

評価	≪評価の目安≫ 収支差額の当初予算額：0円の施設が該当 収入合計／支出合計の比率が S(優良)：105%以上 A(良好)：100%～105%未満 B (概ね計画どおりの収支状況である)：85%～100%未満 C(収支比率に15%を超えるマ イナスが生じている)：85%未満
S	

[指定管理業務]

(単位:千円)

		収入の状況				支出の状況	収支の状況		
		指定管理料	利用料金	その他収入	その他収入の内訳	収入合計	支出	収支差額	収支比率
前々年度	当初予算	0	65,350	37,004	ルベジョン、標的等(ラフめ)、技能講習・射撃教習	102,354	63,050	39,304	162.34%
	決算	0	34,460	28,802	ルベジョン、標的等(ラフめ)、技能講習・射撃教習	63,262	64,238	-976	98.48%
前年度	当初予算	0	54,992	24,403	ルベジョン、標的等(ラフめ)、技能講習・射撃教習	79,395	79,395	0	100.00%
	決算	0	55,087	25,021	ルベジョン、標的等(ラフめ)、技能講習・射撃教習	80,108	79,988	120	100.15%
27年度	当初予算	1,719	59,087	35,978	ルベジョン、標的等(ラフめ)、技能講習・射撃教習	96,784	96,784	0	100.00%
	決算	1,719	51,525	43,282	ルベジョン、標的等(ラフめ)、技能講習・射撃教習	96,526	88,966	7,560	108.50%

※支出に納付金が含まれる場合、その内数				(単位:千円)	
27年度 /	0	前年度 /	4,408	前々年度 /	4,408

<備考>

[参考：県が支出した修繕工事費]

※県が支出する計画修繕工事・各所営繕工事等に係る修繕費

時期(年・月)	金額(千円)	工事箇所・内容(金額(千円))
平成27年9月	5,012	クレー射撃場施設改修工事監理業務委託(5,011.2千円)
平成27年9月	213,089	クレー射撃場施設改修工事(213,088.3千円)

(基本協定において県が負担することとしている修繕費等：協定書上県による負担はない 千円以上)

[参考：資本的な収入及び支出等の状況]

	金額(千円)	内容(金額(千円))
収入		
支出		
積立		

8. 苦情・要望等

分野	報告件数		概要	対応状況
	対面	1 件		
施設・設備		件	大口径射場の標的交換時の危険性を指摘された。	指定管理者において、標的交換時に音声ガイダンスを流すシステムを構築して対応
		件		
職員対応		件		
		件		
事業内容		件		
		件		
その他		件		
		件		

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

9. 事故・不祥事等

発生日	事故等の概要	原因・問題点	①指定管理者の対応状況(再発防止策・業務改善策等) ②県の対応状況(随時モニタリング・改善勧告の実施等) ③責任の所在及び現在の状況
平成27年4月6日	4月の休場日にクレー放出機メンテナンス担当者が、放出機の板バネ等の修理に従事し、手でクレー標的を放出した際に出割れが生じ、クレー標的の破片が目当たって負傷するという事案が発生した。	同様の作業に従事する際には、防護ヘルメット及び、防護眼鏡の装着を義務付けていたが、それを遵守していなかったことが主たる原因	①指定管理者において、あらためて全従業員に対して注意喚起を行うとともに、防護ヘルメット及び防護眼鏡の装着の徹底及び作業着手前の事前報告を徹底するよう指示 ②県として、事故の原因究明を徹底し、再発防止策を講ずるよう指示 ③従業員に対して注意喚起を行った結果、その後大きな事故は起きていない。

※随時モニタリングを実施した場合は必ずその内容を記載。

※過去に発生したものでも、新たな対応等を実施した場合には、その内容を記載。

※なお、大きな事故・不祥事に関して改善勧告を行わなかった場合は、その理由を併せて記載。

10. 労働環境の確保に係る取組状況

確認項目	指摘事項の有無	備考
法令に基づく手続き	無	
職員の配置体制	無	
労働時間	無	
職場環境	無	

※指摘事項は、県による監査(包括外部監査含む)又は労働基準監督署によるものとし、有とした場合は備考欄に概要を記載。